標注令義解校本 五

ワ 3
6244
5

73
6244

昌平坂學問所

凡拾貳條の拾貳京本貳拾ヱ作
ゝり。二十條のうちも凡天神
地祇より季冬云云まで擡頭
したる行を皆別条ゝて。九
條凡天皇即位ゝり以下十一
條。合て二十條と見ゝるもの
也。十二条のうちも凡天神地
祇より季冬云云までを一條
ゝて。凡天皇即位以下の十
一條と。合て十二條と見ゝる
もの也。然共擡頭したるを
以て別條とせむ事理ヱかま
もねむ。今十二條のうちヱ従
ふ。猶公式令ゝもいへて。
天神地祇ハ。和名抄ヱ。天神和名
安万豆夜之呂。地祇和名久尓
豆加三或夜之呂。とゐり。古事
記傳ヱ。こハ天神の方をも。安
万豆加三或夜之呂と云べき
事也といへり。これヱ依て。天

標注令義解校本卷三

神祇令第六 謂天神曰神。地神曰祇。

凡拾貳條

凡天神地祇者。神祇官皆依常典祭之。

謂天神者。伊勢。山城。鴨。住吉。出雲國造。齋神等。類是也。地祇者。大神。大倭。葛木。鴨。出雲。大汝神等。類是也。常典者。此令所載祭祀事條是也。

仲春祈年祭。

謂祈猶禱也。欲令歲災不作。時令順度。即於神祇官祭之。故曰祈年也。

永五味均平藏

神をアマツヤシロ、地祇をクニツヤシロと訓べし。即崇神紀に、天社國社とあり。天神は天に坐す神、天より降坐る神をいふ。地祇は此國に生坐る神をいふ。

山城鴨と神名式山城國愛宕郡賀茂別雷神社、名神大。これ上社別雷命あり。賀茂御祖神社二座並名神大。これ下社なり。別雷の母玉依比賣と、大山咋神とを也。住吉は同式に、摂津國住吉郡住吉坐神社四座並名神大。頭注に底中表筒男、神功皇后也とあり。出雲云云は同式に、出雲國意宇郡熊野坐神社、名神大とあり。須佐之男命あり。大神は同式に、大和國城上郡大神大物主神社、名神大とあり。出雲國造神賀詞に、大穴持命の和魂といへり。是即美和に鎮座ます御魂の名にて、大穴持の一名なりとあり。古事記傳二十に委しく、大陵は、式に、山遠郡大和坐大國魂神社三座、名神大とあり。大和を經營まし〻功ある神也。葛木鴨は、式に葛上郡高鴨阿治須岐詫彦根命神社四座並名神大とあり。大穴持の子也。出雲大汝は、式に出雲國出雲郡杵築大社、名神大。

仲春より季冬までの、季下の諸祭の名、集解本注にしたがへども、京本のまゝに本文とす。

祈年は、トシゴヒと訓む。詔詞考云、年とは五穀の中に專ら稻をいふ。春種を水に浸すより、冬収るまで、一年を經る故也。

四時祭式曰、祈年祭二月四日。

季春鎮花祭

謂大神狭井、二祭也。在春花飛散之時、疫神分散而行、癘為其鎮遏、必有此祭。故曰鎮花也。

孟夏神衣祭

謂伊勢神宮、祭也。此神服欲令山谷、水變成甘水、浸潤苗稼得其全稔。故有此祭也。

大忌祭

謂廣瀬龍田、二祭也。

風神祭

謂亦廣瀬龍田、二祭也。欲令沴風不吹、稼穡滋登。故有此祭也。凡讀此四祭者、先讀神衣、其次三枝、其次大忌、其次風神、即與公式令連署義同。以下諸祭、宜准此例也。

三枝祭

謂率川、社祭也。以三枝、花飾酒罇祭。故曰三枝也。

季夏月次祭

謂於神祇官、祭、與祈年祭同。即如庶人宅神祭也。

道饗祭

謂卜部等於京城四隅、道上、而祭之。言欲令鬼魅自外来者、不敢入京師。故預

鎮火祭

謂在宮城四方、外角、卜部等鑽火而祭。為防火災。故曰鎮火也。

祭神三千一百三十二座と云ふ。凡諸祭の中、祈年なり。祭神の多きもの、これ年穀を祈て、天下を豊かならしむる祭なり。國々の神社、大概預らざるもあるべきゆゑに多きなり。順度ハ、或云順序の誤。

鎮花の花、京本華に作る。古本及貴嶺問答花に作るに従ふ。義解も同じ。

狭井は、神名式、大和國城上郡狭井坐大神荒魂神社、これ也。癘を鎮む為に、大物主の和魂大神社と、荒魂狭井社とを祭らせ給ふ。崇神紀に五年多疫疾と云りて、七年に大物主の教に依て大田々根子とりあ者を以て、大物主の祭主とし給ひけるに、疫病始息と云ふ。この故事によりて也。

孟秋大忌祭。風神祭。

迎於道而饗過也。

季秋神衣祭。謂與孟夏同。神嘗祭。謂神衣祭日使即祭之。

祭同。

仲冬上卯相嘗祭。下卯大嘗祭。

謂大倭・住吉・大神・穴師・恩智・意冨・葛本・鴨・紀伊國日前神等類是也。神主各受官幣帛而祭也。

卯者以中卯為祭日。不更待下卯也。

必有此祭の必字集解始に作る。

神衣祭は四月十四日也。太神宮式に、和妙衣者服部氏、荒妙衣者麻績氏、各自潔齋、始從祭月一日織造、至十四日供祭と云ふ。釋云其國有神服部等、齋戒淨清、以三河赤引神調糸御衣織作。又麻績連等麻績而敷和御衣織奉。また儀式帳に、四月例以十四日、神服部神麻績、神部等、造奉太神御服、神服部織女八人、神麻績織女八人と云ふ。赤引糸は、参河より調に奉るあり。儀式帳解に、赤は明也、引は糸を清めて引也といへり。又参河にも太神宮神領ありて、太神宮式に参河國二十戸と見え、神鳳抄に参河に御調糸と載せり。此糸を以て、神宮機殿に於て織る。上に引る釋に、其國有神服部と云ふ。其國は伊勢の事なれば、これ伊勢に居住の服部氏にて、和名抄、奄藝郡服部と云ふ。また麻績氏の事は、古語拾遺に、長白羽神、伊勢國麻績祖、種麻以為青和幣と見ゆ。これ長白羽神の子孫、伊勢の麻績氏の祖にて、麻を種てこれを以て青和幣を織れりとよりて、種さる方ハ主に云ふ。為青和幣と云ふ。されハ織れる所ハ伊勢なれども、麻を種さるは伊勢にも云ふ。拾遺に、仍令天冨命率日鷲命之孫、遣阿波國、殖穀麻種、其裔今在彼國、當大嘗之年、貢木綿麻布及種々物、所以郡名為麻殖之縁也と云ふに依る。麻を阿波に種ゑるは、天日鷲神の孫にて、その始は同書に、令天日鷲神以津咋見神云云と見えたれば日鷲神に起れることなるべく、即神名式に、阿波國麻殖郡忌部神社、或號麻殖神、或號天日鷲神と見えて、阿波に麻殖といへるは、麻を殖さるよりの名なれば、年々の四月御祭料の麻を、阿波より奉れるを、伊勢にて麻績氏の織れること、参河調糸もて服部氏の織れると同例なるべし。但服部氏の織る和妙の糸は、参河の御神領より、直に伊勢に進るゆゑに、其由義解に注らるとされ、共式の封戸の内に、阿波國の无きを思へば、麻績氏の織る荒妙の麻は、彼國より、直に伊勢にも進らぬにやあらむ。神鳳抄に、阿波に来の御厨あれども、これ後に寄られたるなるべし。中古までも、阿波に麻を殖さる證は、建久五年六月

仲資王記云阿波國忌部久家還補氏長者件忌部者大祀之時職主荒妙御衣之氏云云ま〻兼元五年九月業資王記云参河國神服阿波荒妙御衣云云ふどゐを以て知べし。ま〻敷和し釋ス宇津波多也と云ふ。冠辭考ス敷し織目の繁き意和てまどやうなることもあれど美織ふ。石原正明云敷ス織目の繁き義と云ふねどあきとつふ詞の假字とゝて繁き意ス見ゝふ。神明とも合類節用集云今世斥天照太神曰神明。

三枝祭し古事記ス其伊須氣余理比賣命之家在狹井河上と見えて注ス其河邊山由理草多在故取其山由理草之名號佐葦河也山由理草之本名云佐韋と云ふ佐紀と佐韋と通ふゆゑスこの草の名ス依て三枝祭とりふ神名式ス率川坐大神御子神社三座この内一座ハ伊須氣余理比賣ス是大神大物主女ふり。

大忌祭し大忌神を主とゝて風神をも祭ス天武紀四年ス祭大忌神於廣瀬河曲祠風神于龍田立野と云て即神名式ス大和國廣瀬郡廣瀬坐和加宇加乃賣命神社名神大これ也四時祭式ス大忌風神祭並四月七月四日と見也稻靈ふる故ス先此月ス祭て穀の生立と成熟とを祈たまふ也。

欲令の欲字京本无一集解を以て補ふ。

風神し級長津彦命級長戸邊命ふり。記傳ス纂疏ス級長し息長といひしが如しとゝふ。此神伊弉諾尊の息ふり成給へる也と見也神名式ス大和國平群郡龍田坐天御柱國御柱神社二座並名神大と云ふ。風神を主とゝて大忌神をも祭ス苗の風ス傷ざらむ事を祈ス祭也。

沴風京本沴風ス作ス集解亦同本朝月令沴ス作ス共ス沴の誤字彙云陰陽氣亂曰沴音田又音例。

以下諸祭宜准此例の宜字古本ス從ふ以下とし道饗鎮火鎮魂大嘗等し此例を以てよむべしと也。

月次し毎月と云むが如し一年の月毎ス祭べきを省き約て六月十二月の二度ス祭ス也四時祭式曰月次祭奠幣案上神三百四座並大殘輝云神祇官ス在て今も行ふ也。

宅神ヤカツカミと貴嶺問答ス訓て土御門院御集云かしも木の杜の下葉を折しきてやうつ神をも祭ふる比ふな宅神の事大祓執中抄開題ス云へり。

道饗祭し六月晦日ス大祓事畢て後行ふ道饗畢て同夜ス鎮火祭行ふる道饗ハ伊弉冊尊の黄泉ス崩まする時の穢より起ふる事ス穢ス云ふる邪神を京師ス入さゝむる祭ふり鎮火も日本武尊の向火と同意の祭ふり委しくハ別記ス云へり。

卜部等と等字を置ス八京城四隅ス一人宛ス卜部四人を用ふる故也小祭故ス卜部のみ也鎮火も同四隅道上とも京城大垣外ス道ふり。これを外畔と云ふ古本拾芥抄云羅城十二丈垣基半三尺犬行七尺溝廣一丈東西南北如是と云ふる内垣基犬行溝ス合て二丈を除き十丈の路四方ス通ずと云ふこれ京の外郭の外也その四隅の角ス卜部等此祭を行ふ。

宮城四方外ハ外重の外也宮城の北大路一條通南の大路二條通ふり東西の大路を並ス大宮と云此一條の東西の大宮の角ス卜部等此祭を行ふ。

鑽火京本鎮火ス作ス今集解ス從ふ記傳ス和名抄ス火鑽和名比岐利凡て火を出ほス打と切との異云ふり中卷倭建命段ス以其火打而打出火と云ふるも打火ス尋常の如し上代より忌清ス火も皆鑽出にも今も大神宮の忌火屋殿ス云て枯ふる檜の木口を切り其木口の中央ス ろぼゝをつけて鑽の栖の如くふる木を以てかの木口をもみて火を出ほ也靈異記ス鑽岐里又母美と云ふキルハ轉磨ス也。

相嘗の言義大嘗の標注ス云へり

穴師神名式大和國城上郡穴師坐兵主神社名神大月次相嘗新嘗意富ハ同式十市郡多坐彌志理都比古神社二座並名神大月次相嘗新嘗と云ふ恩智も同式河内國高安郡恩智神社二座並名神大頭注ス御食津神也と云ふ日前ハ同式紀伊國名草郡日前神社名神大月次相嘗新嘗その外の諸社ハ上ス注ス云ふ四時祭式ス相嘗祭神七十一座と有ていと多し故ス等類是也といへるもの。

神嘗外宮ニ九月十六日内宮ニ同十七日也義解ニ神衣祭日云云の事別記ニいへり使字京東二本便ニ作る今集解を以て改む

鎮魂之事別記ニいへり

大嘗の注ニ謂若有二卯者云云の十八字義解の文ニ非ず旁書攙入也ト鴨祐之いへり大嘗ニ後世所謂新嘗也後世ハ毎年行ふを新嘗ト云ふ踐祚ニ行ふを大嘗ト云此今ハてハ其別あり共ニ大嘗ト云但皇極紀ニ元年十一月丁卯天皇御新嘗是日皇子大臣各自新嘗ト見えて制令より以前ニ朝家のを新嘗といへる事ハ所うしらず今制の時かく大嘗ト定らるる也大ト小相嘗ニ分ふれを祭神い

寅日鎮魂祭

季冬月次祭　鎮火祭

道饗祭

前件諸祭供神調度及禮儀齋日皆依別式其祈年月次祭者百官集神祇官中臣宣祝詞謂宣者布也祝者贊辭也言以告神祝詞宣聞百官故曰宣祝詞也忌部班幣帛謂班猶領其中臣忌部者當司及諸司中取用之也

と多くて大あら祭あれも大嘗ト云ふて新嘗をも二ヒアへとよむ是を約まを二へなるゆゑニ大嘗をオホアへともよまでオホニへと云字類抄ニ三二へノマツリと訓るも此義也當年の新稲を嘗ひる祭ニて今世俗間の秋祭ニ比ル倣へる也四時祭式ニ新嘗祭奠幣案上神三百四座並大社一百九十八所と見えたるを為職貢令神祇官條ニ合せ看べし其此條の讀法ニ種々の説ありて云孟夏仲冬等注先讀上二件了乃至下注為長一云先神衣次大忌次三枝仲冬注相嘗次鎮魂也但先讀寅日奈乃可讀下卯日而先讀大嘗者依職貢令所次先後耳又季夏季冬道饗祭是

凡天皇即位總祭天神地祇謂即位之後仲冬乃祭下條所謂大嘗者毎世一年國司行事是也散齋一月謂仲冬之月自朔至晦也致齋三日謂自丑至卯也其辰日以後即為散齋故下條云致齋前後兼為散齋也其大幣者三月之内令修理訖謂大幣者供神幣物各有色目金麻桶金線柱奉伊勢神宮揩戈奉住吉神之類是也三月之内者唯據月言不以日計即始自九月終十一月也修理者此言新造也

凡散齋之内諸司理事如舊不得弔喪

晦故曰是說為長也云云穴の前說もまづ上に列とるを讀む事孟夏の件の義解に凡讀四祭云云とはるるかゝ（まむ從べき事論をまゝ注うられむ仲冬の件も上卯寅日下卯と讀へき也然るに一云の說を舉て職員令を證に引きと孟夏の件の義解に以下諸祭亘准此例と見え又職員令集解に神祇令者依祭先後為次故鎮魂居大嘗之上隨事設文不必一例とはるも大嘗の上に鎮魂はるの證ふれも一云をも用べくゝ注

別式も續紀天平寶字三年六月丙辰石川朝臣年足奏曰臣聞治官之本要擾律令為政之宗則須格式方令科條之禁雖著篇簡別式之文未有制作伏乞作別式與律令並行まゝ同六年九月乙巳石川朝臣年足薨上便宜作別式二十卷各以其政繫於本司雖未施行頗有擬用と見り是を以て思へも皆依別式とゝはるもとゝたゞ其掌る官司ごとに書留てはる底にて撰令の時に未成文もあるゝを年足奏て作きる歟但こはも未施行とはもも世に行はるゝるはるゝ注以其政繫於本司とはるハ延喜式の如きものあるゝを

百官集神祇官宣祝詞穴云百官謂男官也或一人或舉司並不見文也朱云主典以上每司一人許可參まゝ宣祝詞とは能理止ハ告說言の約め也跡に祝詞者法刀言也といへり穴云中臣宣祝詞首時行事宣參集之社々祀部等也この說の如し祝詞式に祈年に月次にも首に集侍神主祝部等諸聞食登豆とはるうてこの祝詞を神主祝部等各その奉仕の社々に持うへり神前に申奉れとの意也義解宣聞百官とはるも誤なり

中臣忌部も釋云忌部是神部也此日忌部二人掛木綿鬘而隨呂祝部名而分充幣帛穴云班謂班諸國也朱云中臣忌部並在神部之中也

幣帛三テグラと訓む三テも御手向の約也クラも古神に獻もの也に人に贈ふとはる物を凡てクラと

ゝふ千位置戸の位まゝ儀式大嘗會に倉代十輿續後記に倉代物五十荷ふゝの倉これ也なほ記傳に

見ゆ靈異記も幣帛美天久良と訓りて上もる凡天神云云より忌部幣帛まで連ゝる文にて一條あること既に云るが如し

凡天皇即位云云致齋三日以上も即位年の大嘗の事也其大幣者以下も即位に就ての大奉幣の事也分ち看べし委くも別記はいへり

散齋荒忌致齋真忌と園大曆觀應二年三月十日件に見ゆまゝ貴嶺問答にもかくいへり朱云散齋一月謂不計日也

金麻桶の麻京本水に作る集解を以て改む太神宮式云金銅麻笥二合口徑各三寸六分尻徑二寸八分深二寸二分まゝ金線柱も和名抄蠶絲具に絡垜和名多々利太神宮式に金銅多々利高各一尺一寸六分土居徑三寸六分万葉に績麻之太多利もど是也うく麻桶線柱を奉るゝも姫神にて神代記に天照太神方織神衣居齋服殿ふゝの故事に依て也揩矛の揩京本楯に作るも誤也住吉に揩矛を奉るも男神にて三韓退治に御靈を幸ひ玉ひしに依て也

諸司理事云云穴云諸司謂官人也依假寧令給假以上色者皆退耳まゝ不得弔喪問病食宍とも喪を弔て死家に入きむ穢に觸き且其悲哀のうゝ心奪れて祭事の心奪れて祭事の懈怠出来むを恐きてあり死穢に甲乙丙の三種はりて延喜式に載たり委く太政執中抄にいへり病を問ときも其病者を哀憐はる心深くあるゝて祭事に懈怠の情出来るゝよう是を禁ぜるゝ下に不決罰罪人とはるも此情に同じ事に食宍を禁らるゝも美味もる故にそれに心を奪れて祭事の懈怠はるゝ依て也下に不作音樂とはる樂も音の優あるものなる故に食宍と同意もて禁ぜられる也それを問喪問病決罰罪人ハ哀傷の深きに就て也食宍作音樂ハ恥樂の深きに就て也哀樂共に心より起るものなれど此條むねに心を禁めさる物也祭祀も大事あり誠敬の心を盡さゝをゝ神明の感應はるべからに外に心のうつる所あるゝても誠敬ハ盡さをぬゆゑに禁を建るゝ生て是を穢とせるもるゝはるを穴云職制

律云凡大祀在散齋而吊喪問疾判署刑殺文書及決罰食宍者笞五十奏聞者杖七十ゝ日食宍の事別記ゝいへり

不作音樂とは朱云雅樂寮不得行職掌欠答然也

不預穢惡之事釋ゝ假如祓詞所謂上祭下落之類とは是のことゝ凡て天罪國罪とは皆穢惡の事也

唯祭祀事京本祀字无一集解ゝにゝ東本これゝ従へり小野宮年中行事ゝ引ゝは唯為祀事とゝり其致齋間は諸政を廢てたゞ祭事のこと行ふ也故ゝ自餘悉斷とゝふ朱云雖不預祭事百官皆止耳

上條の上字京本脫せゝ集解を以て補ふ

天神之壽詞云云持統紀四年正月朔中臣大島朝臣讀天神壽詞畢忌部宿禰色夫知奉上神璽鏡劔於皇后皇后即天皇位ことれ也此壽詞記詞式ゝ載せ法王勝間ゝ台記の内ゝり拔て載たり神璽之鏡劔ゝうゝてもゝ鏡劔二種を璽とせり實とは神璽とは三種ゝて此二種の外ゝは八坂瓊之曲玉ゝり公式令ゝ天子神璽寶而不用とゝるが即曲玉也故ゝ義解ゝ此即以鏡劔稱璽也といへり此字ハ彼ゝ對ゝ彼とは公式令ゝある玉璽をさは彼玉璽とこの鏡劔とは合て三種ゝあり委くハ公式令の標注及職原標注の別記ゝいへりさてかく壽詞を奏し鏡劔を奉ゝは踐祚の日の故事ゝあるを儀式大嘗祭辰日條ゝ神祇官中臣捧

凡一月齋為大祀謂上條云散齋一月即此條稱齋者皆散齋也唯於一日齋更無散齋其致齋者皆在散齋限内也

為中祀一日齋為小祀

問病謂有重親喪病者不在預祭之限也

食肉亦不判

刑殺不決罰罪人不作音樂謂不作絲竹歌儛之類也

不預穢惡之事謂穢惡者不淨之物鬼神所惡也

致齋唯祭祀事得行自餘悉斷其致齋前後兼為散齋

凡踐祚之日謂天皇即位謂之踐祚祚位也

中臣奏天神之壽詞謂以神代之古事為萬壽之寶詞也

忌部上神璽之鏡劔謂璽信也猶云神明之徵信此即以鏡劔稱璽也

凡大嘗者每世一年國司行事以外每年所司行事謂所司者在京諸司預祭事者也

凡祭祀所司預申官謂所司者神祇官也預申官者即一日齋亦須預申之也

官散齋日平旦頒告諸司

賢木入自儀鸞門東戸。就版跪奏天神之壽詞。忌部令奉神璽之鏡劒。共退出。と見えて。後ゝハ大嘗の時の事とあり。是ゝ就て。跡穴等の說ありしど。其文誤脫多けきを引ぬ。

凡大嘗。この大嘗。踐祚の年のと。常年のとを合ていへり。とゝる依て。毎世一年といひ。毎年といひて別てり。毎世一年あるを。上ゝ凡天皇即位惣祭天神地祇云云。これ也。毎年あるハ。上ゝ下卯大嘗とあるを。是なり。

國司行事の國司も。悠紀主基の國司也。御代始抄云。悠紀を齋忌とゝふ心也。主基を次と云字をスキと訓り。次の神齋也。國郡ト定を。二月ゝり九月まて八ヶ月の内ハ。毎月其例あり云云。これを天武紀五年ゝ。齋忌則尾張國山田郡。次丹波國訶沙郡。と見えて。私記ゝ師說次於齋忌。とあるゝ依玉へる物ゝ。次字ハスキの假字あれど。言義を濯のス、を約てスとといへる也。悠紀のユを イムの約ゆゝ對て知べし。悠紀主基共ゝ名異あるゝのミゝて。少しもけぢめ无く。同事あれど。次於齋忌とゝふべゝ。

散齋日平旦。弘仁二年二月六日格云。散齋之日平旦。頒告諸司。諸司未兼事之前。或有犯禁忌之徒。宜改令條。散齋之前一日。頒告諸司。自今以後永為恒例。云云。祭日の平旦ゝても。其告の无き間ゝいろゝ事のあらむもしかり難けきを。前日

凡供祭祀幣帛飲食及菓實之屬。所司長官親自檢校。必令精細。勿使穢雜。

凡常祀之外。須向諸社供幣帛者。皆取五位以上卜食。謂凡卜者。必先墨畫龜。然後灼之。兆順食墨。是為卜食也。者。充唯伊勢神宮常祀亦同。

凡六月十二月晦日大祓。謂祓者解除不祥也。者。中臣上祓麻東西文部。謂東漢文直。西漢文首也。上祓刀讀祓詞。謂文部漢音所讀者也。訖百官男女聚集祓所。中臣宣祓詞。卜部為解除。

凡諸國須大祓者。毎郡出刀一口。皮一張。鍬一口。及雜物等。戸別麻一條。其國造出馬一疋。

凡神戸調庸及田租者。並充造神宮及供神調。度其稅者。一准義倉。謂租稅者。並是田賦。唯新輸曰租。經貯曰稅也。一准義倉者。不出舉也。皆國司

ゝ告べく定たまへるりの也。
ト食神代のト法ハ鹿の肩骨を
焼てトなゝ也古事記ゝいふり。
後ゝも龜トとあれり崇神紀
ゝ命神龜といふを以て知べ
し。ゝ別記ゝいへり。

兆順ゝ職員令義解云兆者灼龜縱横之文也。
常祀亦同とゝ太神宮式ゝ凡神嘗祭幣帛使取王五位已上卜食者充之其年中四度使祭主供之若有故者
官并諸司官人及散位中臣氏五位已上充之五位已上有故障者六位亦得と見ゆ神嘗を始め四度使共
ゝ常祀の使あれども卜食の人を用らるゝ事かくの如し但此式文ゝ官并諸司官人云云の下ゝ卜食
の字ハ无れども此ハ上の王五位以上卜食者とあるゝこめて省らるゝもの也續紀天平二年閏六月甲
午制奉幣伊勢太神宮者卜食五位以上充使とあるゝて知べし。

檢校申送所司

大祓者中臣上祓麻この者字以下の六字京本脫ゝり集解を以て補ふ東本祓麻の上御字あり本朝月令
ゝよりて削る此麻ハ御身の穢を除清玉へと中臣より奉る御麻ゝて委くハ大祓執中抄ゝいへり。
東西をヤマトカウチとよむも大和も東ゝあり河内も西ゝあるゆゑの義訓あり文直も大和ゝ住ミ文
首ゝ河内ゝ居れむ東西の字を以て合たるりの也漢文直も應神紀ゝ二十年秋九月倭漢直祖阿知使
主其子都加使主並率己之黨類十七縣而來歸焉と見えゝる漢直の事ゝて其阿知使主ハ漢靈帝の曾
孫ゝあり中國ゝ歸化しりゝ子孫榮えつひゝ十一姓ゝ別れり委くハ續紀卅八坂上苅田麻呂上表ゝ
見ゆ文直も即其十一姓の内の一ゝて大和ゝ住り漢文首ハ應神紀ゝ十六年春二月王仁來之所謂王
仁是書首等之始祖也と見えて漢高祖の後ゝ鸞と云人あり鸞の後を王狗といふ朝鮮ゝ移れり狗ハ

孫即王仁也中國ゝ奉て代々河内ゝ住り是を漢文首といふされど文直文首其出自も異なれども共
ゝ宿禰ゝ賜ふ事續紀ゝ見ゆ。

上祓刀この式ハ中國の古風ゝもあらで文部ゝ家ゝ傳ふる漢土の法ゝあるべし刀ハ物を裁切る器ゝ
きもゝ穢を斷去る意を以て用ゝるゝやうゝむ祓刀を奉て漢音の祓詞をよむ也其文ハ詔詞式ゝ載られ
て獻横刀時呪と題せり其儀も四時祭式大祓の件ゝ委し執中抄ゝいへり此文部ハ祓刀を上る事釋
ゝ延曆六年六月卅日右大臣宣奉敕自今以後令任諸司主典以上者上之とあり。

聚集祓所とも儀式ゝ依きもゝ朱雀門前也ゝ中臣祓詞忌部解除等の式共ゝ大祓執中抄ゝいへり。
凡諸國須大祓者云云凡て祓ゝ大上中下の四の別あり集解三代格等ゝ載る延曆廿年五月官符を考
ゝ大祓の料物ハ二十八種也其中ゝて刀皮鍬ふどもゝ祓ゝ主と用らるべき物ゝある故ゝ名目を舉て
其外を雜物といへる也但麻ハ戸別ゝ出ださるゝ麻ハ祓のミゝ限らず何事の神祭ゝも用らるゝ物
ゝある事古事記傳ゝ奴佐ハ神ゝ手向る物をも云ひ祓ゝ出ださる物をもいふ名義ハ禱布佐ゝて事を乞禱
ぐとて出ださるゝ也祓の奴佐も其罪穢を除清め玉へと禱く意を以て出だされば神ゝ獻て禱くと同
しさて布佐ハ麻也古語拾遺ゝ好麻所生故謂之總國とあり抑神ゝ手向るも祓ゝ出ださも其物ハ種々
あるゝ中ゝ殊ゝ麻をもゝ名ゝ負て奴佐といふもあるゝ中ゝ主とあるゝ一種ゝつきて也即麻とかくも
この故ぞかしといへり然祓ゝ麻を主とあるゝ起ハ天照太神天岩戸ゝ入玉へるを招禱まつりし時の
幣物ゝ青和幣あり素盞嗚尊ゝ祓を科せし時の書紀の一書ゝ以逮為青和幣とあるなど證とはべし。
青和幣即麻の事なり其國造云云丈云國造國別有耳若國造闕者无馬也今說刀一口以下雜物已上者
郡司私備耳朱云國造任郡司无國造者郡司兼亦出馬耳跡云但无國造者不出馬耳ハ此等の諸說を考
るゝ次跡ハ國造无れば馬を出さず朱ハ國造无しといへども馬を出ださしめ也按ゝ馬も祓ゝむねと
あるりのゝて詞ゝも載らるゝまで朱ゝ從ふべし。

神戸の事.職員令に見ゆ.天武紀六年五月己丑敕.天社地神税者.三分之一分擬供神.二分給神主.と云ふ.此條に.神主に給ふる事見えざるも.大寶の改制.なほ供神調度の内にこもるか.さて神戸も.百戸以上にても五十戸にても.寄附の民増減无き例にて.もし増せば公に収め.若減ぜば公より加へ玉ふ.續紀養老七年五月制に.神戸當造籍帳.戸无増減者.依本為定.若有増益即減之.死損即加之.と云ふが如し.また逸史延暦廿年七月格に.自今以後神戸限以三丁.田租定十五束者.丁減少.供祭應乏.宜天下諸社同共弛張.丁并租數.一依舊例.と見えたり.田租税の事職員令にいへり.

申送所司.朱云.所司謂神祇官.

と.觀玄象云云.とは.うらの事.僧尼に限らず.古ハ俗人にも禁られし也.職制律に.凡玄象器物天文圖書讖書兵書七曜曆太一雷公式.私家不得有.私習者亦同.この條に合せ看べし.

災祥.釋云.災祥二也.と云ふ.災は天反時也.神祇令義解に.歳災不作.時令順度.と云ふ.これに違ふを云.祥ハ吉にても凶にても.其氣の象現を見ゆるを云ふ.義解の如し.雖令義解に吉氣為徴.祥.妖氣為災異.と云ふとハ.ちがひと別あり.

妖言の二字.壺井本に依て加ふ.義解に過誤為妖言.と云ふを以て.本文に此二字の脱さるを知べし.

一人の一字.京本萬に作る誤也.一本三に作る.又非也.今集解

僧尼令第七　凡貳拾漆條

凡僧尼上觀玄象假說災祥妖言語及國家妖惑百姓.謂天文為玄象也.非真曰假也.天反時為災也.吉凶先見為祥也.過誤為妖言也.語及國家.不敢斥尊號.故託曰國家也.言假說之語.關涉人主也.妖惑百姓者.以假說之言.惑一人以上也.其自觀玄象.至妖惑百姓.惣是一事相須得罪也.若上觀玄象所說有實.及非觀玄象.說他災祥.并雖說玄象而不惑人者.並入下條也.

并習

に従ふ。三に作るハ。史記注に。獸三為羣人三為衆。とありて。賊盜律に以惑衆者亦如之。其疏に。惑三人以上者といひ。外にも三人以上は衆なるよしいへるを以て。妖言して衆人を惑ハ。此事と見るる也。されど朱に妖惑一人以上。是不有三人以上也。文不稱衆故也。といふに従ふべし。

入下條とも。次なるト相吉凶條の還俗をさ。

殺人奸盜。古記云。奸謂娶亦同。為无妻法故也。盜謂強盜。不得財亦同也。穴云。戲殺等皆為雜犯。不入此条。

四果。古記云。此小乘果謂四果云云。かくいへるも。大乘四果といふものを。ここ也。すべて古記に。總言之。初二三四果也。また釋に。一曰預流果。二曰一來果。三曰不還果。四曰羅漢果。これを四果と云。此第四の羅漢果に至れるが。小乘の極也。涅槃に四果の定あり。一須陀洹。此翻預流。此位斷三界八十八使見惑。見眞諦。故名為見道。又名聖位。二斯陀含。此云一來。此位斷欲界九品思中。斷前六品盡。後三品猶在。更一來。三阿那含。此云不還。此位斷欲殘思盡。進斷上八地思。四阿羅漢。此云无學。又云无生。又云殺賊。又云應供。此位斷見思俱盡。子縛已斷。果縛猶在。名有餘涅槃。若灰身滅智无餘涅槃。略明聲聞位竟。と見ゆ。されど羅漢果が四果の極也。

皆元還俗以下百字。京本脫。今集解を以て補ふ。還俗の事ハ。刑

讀兵書。謂雖不成業。亦是。若畜之而不習讀。及畜餘禁書者。亦入下條也。

殺人奸盜。謂若殺及奸家人奴婢。并奸盜未得者。並依下條也。

及詐稱得聖道。謂四果聖人之道也。

並依法律付官司科罪。謂不論罪之輕重。皆先還俗。何者。案道僧格。犯詐稱得聖道等罪。獄成者。雖會赦。猶還俗。故必先還俗。其僧尼還俗。猶俗人。除名。依律犯除名者。罪雖輕。從例除名。罪若重。仍依當贖法准此。言之。僧尼詐稱得聖道等者。罪雖輕。猶還俗。不可更論本罪。罪若重者。仍依以告牒。當之法也。

凡僧尼卜相吉凶。謂灼龜曰卜。視地曰相。占筮亦同也。**及小道**。謂厭符之類也。**巫術**。謂巫者之方術。既是淫邪多端。不可具言。是並雖不終事理。而已始行者。皆處還俗也。**療病者皆還俗**。其依佛法持呪救疾。不在禁限。

凡僧尼自還俗者。三綱録其貫屬。謂還俗者。先已還俗。訖者。非今始還俗。故下文云。三綱師主隱而不申也。三綱者上座寺主都維那也。**申省除附**。若三綱及師主。謂依心師是也。自為

京經僧綱。自餘經國司。並

部式云凡僧尼犯罪應訊者皆埿衆證定刑不須拷拷其應還俗者具注本貫姓名年紀牒數移送治部民部等省除附帳籍道僧格と唐の格文あり今傳らず

俗人除名と名例律に委し官位勲位悉く除るゝを除名と云仍依以告牒當之法とし俗人の當贖の法に倣へる也俗人除名を犯たるが罪猶重くて餘罪あるゝ時は銅を以てこれを贖ふ笞五十の贖銅五斤杖一百の贖銅十斤などの如し僧尼還俗を犯すゝむ餘罪あるゝ事は俗人と異なて私物无きゆゑ贖銅を出す事能はず是に依て告牒を以て當らず

小道云云と小道と巫術との二事を以病を療する僧を還俗と也義解の厭符二事也賊盜律云凡有所憎惡而造魘魅及造符書咒詛欲以殺人者各以謀殺論減二等といへり即魘魅と符書と也但後成抄に厭魅今案厭符魅謂邪氣使狐狸之類也これに依きを厭符一事也古記云巫術謂卜者筮者行事耳朱云巫術謂祭神而療病耳還俗之後更不可科罪

持咒救疾古記云持咒謂經之咒也うれを經中の咒文に依て疾を救ことし禁ぜられざる也但續紀靈龜元年四月壬辰件に僧尼依佛道持神咒以救病徒施湯藥而療痼病於令聽之と見えたまど湯藥を用て病を療する事は令條に文なしこれ輕き事なる故に省けり物也同紀養老五年六月詔に沙門法蓮心住禪林行居法梁尤精醫術濟治民苦善哉若人何不褒賞其僧三等以上親賜宇佐君姓とあり既に醫術を行むこと湯藥を用むこと勿論なり故に同紀天平寶字七年五月戊申大和上鑒眞物化皇太后不念所進醫藥有驗授位大僧正と見ゆ湯藥の禁もゝぬ事如此穴云問依醫方治者何答古今依道術符禁湯藥救療者今除湯藥字明湯藥不還俗但為非持咒故令有異科額云從違令也釋云前令制湯藥今令不在制限うゝれを前令にて湯藥を以て病を療する事も僧尼の所行に成るゝ故に還俗きゝ仕るまども此令に湯藥の字を除られゝるゆゑに還俗に至らず但額にて僧尼に相應する持咒のゝざるゝぬを以て違令を科らゝるゝよゝいへまど既に湯藥の字を除るまゝゝゝゝに違令ともいひゝとかゝむ欲續紀の如く褒美さへぜられゝるまハるは釋に不在制限といへるに從ふべし

三綱僧史略云三綱寺之設也若綱維之巨綱提之則正故云也梵語摩々帝悉晉那羯摩陀那華言寺主上座悅衆也詳其寺主起乎東漢白馬也寺既人必主之于時雖无寺主之名而有知事之者東晉以來此職方盛上座取其臘齡局者充之都維那者寄歸傳云華梵兼舉也維是綱維華言也那是畧梵語刪去羯摩陀三字也まゝ六典に每寺上座一人寺主一人都維那一人共綱統衆事

貫屬とハ本貫と親屬となり

僧綱釋云僧正僧都律師也この三官即僧中の棟梁釋門之長者也その集會の司を綱所と云

申省除附古記云省謂治部省穴云案之省受取即申官官下民部民部下本屬除附耳これ僧尼の名帳を除て俗人の戶籍に附る事也

依心東本依止に作るも誤白衣ハ緇衣に對せゝ語なり在俗の時をいふ

五十日苦使云云これ隱ーたゝ者を罰たゝ也さるに還俗は是本の民戶に歸る公家に白衣ー時上服事者也出家以後受業亦同也隱而不申三十日以上者五十日苦使六十日以上百日苦使

凡僧尼將三寶物餉遺官人謂三寶者佛法僧也

餉遺者無心囑請直將送與私物妄相囑請者亦同官人者內外百

於てハ得ずして失あり。然らむ隠したる者をも罰し玉ふまゝきゝさるをハこれ私度を禁ずる也。下に冒名相代條及移名他條あり。合せて立制の意を晓るべし。残糧云。還俗に咎无し。隠ぎる者に咎ずる也。

三寶者。佛法僧也。これ佛物法物僧物の三ずるをいへる也。法隆寺流記に。佛分肆佰肆拾陸石捌斗参升伍合。法分伍拾参石貳斗。聖僧分貳佰捌拾石参升。かくの如く。古ハ三寶の物。其別ずるし也。

若送私物妄相囑請。釋云。將私物送為囑請亦同。无所囑請者非也。穴云。今意以三寶物送者。雖无囑請。尚坐之。尋其心者。為防囑請。然則以私物送亦為防囑

官主典以上。若遣九人。并自用者。須准同居卑幼用財之法。其三寶物混在一處未經分割。故不科盜罪。若僧物分訖而盜者。依凡盜法。其同財弟子盜者。亦從同居卑幼之律也。

若合搆朋黨擾亂徒衆。謂假有八一邪僧欲排寺主招引黨類合謀潛害互相撥毀亂人視聽之類也。

及罵辱三綱陵突長宿。謂罵者惡言也。辱者恥辱也。陵者慢易也。突者猝欺也。長宿者長老宿德也。其罵辱者重。陵突者輕。長宿既尊。三綱稍卑。即明陵突三綱者不合苦使之也。

者百日苦使若集論事辭狀正直以理陳

請。尚可苦使。其所受官人依囑請者。依枉法不枉法科。不依囑請者。可科坐贓。其將衆僧供養料餉者。亦是三寶物。但已分之後者。依盜法也。物不滿一尺无罪也。諸贓不足一尺无罪故。但依囑請者依下条耳。送直人及自用物。倣同居卑幼用財也。この説によて詳也。囑と字彙に音祝。託也付也。と見えて。人に事を託しなのむを云。古記に不送物直囑請者。依下條五十日苦使。とあり。下條とも凡僧尼有事云云妄相囑請者五十日苦使。と見えて。義解に唯止囑請者即是也。とずるを指ずるもの。

同居卑幼用財之法とも。已ずるも。卑く齒稚なる親屬の同居しなるが。已の財を取つゝ

者不在此例。

凡僧尼非在寺院別立道場聚衆教化。謂道場教化。相須還俗。若雖立道場而不教化者。須科違令毀去道場也。

并妄說罪福。謂在寺院而妄說也。

及毆擊長宿者皆還俗。謂擲上條長宿三綱尊卑既異。今此條唯舉尊者。故毆卑者不可還俗。自須准毆傷輕重依格律條論。但不可輕於罵辱之罪。其凡僧相毆者亦依下條也。

國郡官司知而不禁止者依律科罪。謂不禁止者。犯上三事已過之後。知而不

ひとる事也。唐戸婚律に同居卑幼私用財者十匹笞十。十匹加一等。罪止杖一百。

罵辱。古記云謂罵也。凌突謂加侮語。阿奈豆留也。

猝欺の猝字。京本脱をり。玉篇云。言倉卒暴疾也。突也。

長宿。古記云。一説長者而有宿德也。穴云。長宿謂有智足敬人也。无智老人非也。假毎寺可有長宿耳。まと釋氏要覽に長阿含經云。有三長老謂耆年長老年臘多者。法長老了返法性。内有智德。作長老假號之者。と見えたり。ての長老も。即この耆年と法との二長老あり。

論事云云。以理陳者。古記云。論事。寺内雜政之類。陳下集解諫字ゐり。

道場。釋氏要覽云。肇曰。開宴修道之處。謂之道場。隋煬帝敕遍改僧居名道場。續紀延暦元年六月乙卯敕曰。京畿定額諸寺。其數有限。私自營作。先既立制。比来所司寛縱。曾不糺察。如經年代。无地不寺。宜嚴加禁斷。自今以後。私立道場云云。主典已上解却見任。自餘不論蔭贖。決杖八十。官司知而不禁者。亦與同罪。この先既立制とゐるが。即ちこの本文の事也。

違令。雜律云。違令者笞五十。法曹至要云。案之令有禁制。律无罪名者。謂之違令云云。僧尼の違令も。俗人に准ずるなり。若使五十日あり。

妄説。釋に不限院内外。妄説者即還俗耳。

毆擊の毆字。一本敺に作る。非也。山田氏云。毆音區。逐也。敺。於古切。捶擊也。敺毆音義俱別也。

唯舉尊者の尊者。長宿あり。卑者も三綱あり。

依格律條。とは。僧尼も罪を犯さぬは定れる者あり故に。格律の條目あり。格律の條目。皆俗人の為に設ー物あるを。僧尼若三綱以下を毆ると時も。其傷の輕重に依て。俗人の格律に准ー重ーなれば流死にも至るべー。輕ーなれば杖笞にも止るべー。其俗人の杖笞も。僧尼の苦使に當る。故に杖笞に當る罪あれば。還俗に至らぬ。但長宿も。師に同じ。これを毆擊ーたるも其傷の輕重を云ひ。皆還俗也。名例律に。

僧尼若於其師。與伯叔父同。まと鬪訟律に凡毆兄姊者徒一年半。傷者徒二年。折傷者近流。刃傷及折支若瞎二目者絞。死者皆斬。詈者杖八十。伯叔父加一等。即過失殺傷者。各減本殺傷罪二等。とゐるが。俗人の格律なり。これに准へ知べー。

上三事とゐるも。立道場と。説罪福と。毆擊長宿との三事也。三事を犯さる僧尼も還俗あるを。後に知おが。ら不糺。まと其時に禁止をさるりのも。依律合與同罪也。と見ゆ。とも名例律に稱云云與同罪者。止坐其罪とゐり。然もも犯者と同罪なるべきを。犯者も僧尼ゐれも苦使也。官司ハ俗人ゆゑ苦使も科らぬ。これに依て科違令罪也。

所部有犯法云云ハ。鬪訟律に監臨之司。知所部有犯法不舉劾者。減罪人罪三等。注云。謂里長以上。知所部之有違法令格式之事不舉劾者。減罪人罪三等。假有人犯律一年不舉劾者。得杖八十之類とゐり。劾字も王篇に劾。胡盖胡勒二切。推劾也。と見ゆ。とも胡勒切ゐり。

陶練もスヽ三子ルと訓む。喰まゆーき物をも喰ぬ者まゆーき衣をも著ぬをりゝ也。

午前捧鉢と。釋氏要覽云。僧祇律

紇。若知其始犯而不禁止者。依律合與同罪也。依律科罪者。科違令罪。但毆擊長宿。以至徒以上。而知不糺者。科知所部有犯法而不舉劾之罪也。

其有乞食者。三綱連署經國郡司。勘知精進練行而

謂精進者。慇懃也。言精鋭求道。進而不退也。練者。陶練也。言陶練情性而以求解脱也。

判許。京内仍

云、時食謂時得食、非時不得食、今言中食、以天中日午時得食、當日中故言中食、また云、午時日影過二髮一瞬即是非時、と見えたり、僧尼ハ午時一度ならでハ食事を得ざる也、故ハ齋宮式の忌詞にも、齋食を片食といへるに、世人ハ朝夕兩度あり、是ハ對て一度あるゆゑ、片食とゆふ、若午時を過て喰へば、畜生食とも非時とも云て、佛戒を犯すとゆふ、鉢ハ、梵網經疏ハ、枕言鉢多羅、此云應量器、また釋云、鉢、鐵器、所以盛飯也、

乞餘物、釋云、乞餘物、科違令、

三等以上云云、等親の事、儀制令にあり、跡云、近親謂三等以上、但依義五等以上亦令取也、

未成人、戸令を按るに、十六以下を不課とあり、故ハ取て侍者とす、十七以上廿以下を中男なり、賦役令云、次丁二人、中男四人、各同一正丁、云々、中男以上を服役の人なれど、未成人と云べし、ねをまた童子ハ充べし、續紀養老元年六月丙辰詔ハ、依令僧尼取年十六已下不輸庸調者、聽為童子、

凡僧尼飲酒云云、少し飲ても もろし、義解ハ不至醉亂也とあるハ、下ハ飲酒醉亂云云還俗とあるハ對ていへるなり、少し飲ても三十日苦使もし醉亂ハ至れば還俗也、然るハ後世令條行ぶれども、僧家ハ私ハ免して飲酒ハ、台記久安二年五月十七日、比枝御幸ハ、坐主申云、山霧、於人有毒、飲酒消之、云中堂禁酒者、禁醉也、また御室右記ハ、於酒一種不可禁止、大師既為病比丘免之給了、上古尚以如此、末代何不放

經玄蕃知、並須午前捧鉢告乞、不得因此更乞餘物　謂衣服之類也、

凡僧聽近親　謂三等以上、餘稱近親、皆准此也、　**鄉里**　謂本

哉とあるに、古制ハ戾れり、

服五辛の服、一本及貴嶺問答ハ、

ようて補ふ、

含生之肉ハ、猪鹿小魚皆是也、

一曰大蒜云云、大蒜ハ字鏡字類抄等、皆於保比留と訓り、應神紀ハ比蘆、集解云、止蒜是也、ちうれば、もともたゝ、ヒルとのこと云一を、後ハ小蒜の小ハ對て、大字を加へ稱すべし、和名抄云、葫一名薤大蒜也、とあり、荅葱ハ、集解云荅葱蓋訓小蒜、然而荅葱當今俗行者忍肉也、和名抄ハ、葱有數種、山葱曰荅、と有ハ依きに、式の山蘭即是欤、葱葱集ハ止葱也、また和名抄、葱和名紀とあり、根を專ハ用ふるゆゑ、根葱と云、分植ハ、ゆゑ分葱と云、共ハ是也、蘭葱ハ、集ハ澤蒜、今云野蒜也、而蘭貫也、

取信心童子　謂未成人之稱也、　**供侍至年十七、各還本邑、其尼取婦女情願者**　謂不限年之長幼、但取於近親鄉里也、

凡僧尼飲酒食宍服五辛者　謂飲酒者、不至醉亂也、食宍者、廣包含生之肉也、五辛者、一曰大蒜、二曰荅葱、三曰慈葱、四曰蘭葱、五曰興渠也、　**三十日苦使、若為疾病藥令所須、三綱給其日限、若飲酒醉亂、及與人鬪打者、各還俗**　謂若本罪徒以上、及僧尼

葱今小蒜と見ゆ古事記に怒毘流和名抄蘭蒿阿良々木これもろへ〳〵山野に生る故に野蒜と云園種の慈葱ふるの稠に比ふれど甚〳〵疎々と生る故に訓らハいうゝこハ和名抄に島蒜和名阿佐豆木とあるに依まる欤但島字をアサと訓むも東雅に韓國方言といへるに集に搗蒜者朝津葱也和名抄に搗蒜和名比流豆木とあるもヒルツキとも云よゆさてハ朝津葱の朝ハ假字にて淺葱也比流豆木の比流も假字にて蒜葱也ソハ共に助辭也是皆蘭葱の同物異名なり〳〵〳〵興渠ハ集解に吳母也高僧傳に興渠多説不同或云蕓薹或云阿魏唯淨土集中別書出云五辛此土唯有四一蒜二韮三慈四薤闕興渠と見ゆるを興渠を載せて懐香一名懐芸和名久禮乃於毛と見えたるを集の吳母とあるに合て此方にも興渠ハ无き故に懐香を代用したる欤さて諸本を校るに集にハ茖葱の茖を慈に作り法曹至要にハ韮に作慈葱を集至要共に角に作れり今京本及本草等に從ふ本草李時珍の説に五辛を載て辛薫之物生食增恚熟食發婬有損性故絶之まと抄にも報應經を引て有病在伽藍外白衣家服已滿四十九日香湯澡浴然後許讀誦經論まと右記に五辛肉之類堅守此式後侶无發若病中自服之時黙寺院之外屋可有此療服也

本罪徒以上云云僧尼の俗人と鬪打したるが徒以上に至れる及僧尼の相鬪打せる並に下條に依ると也本文ハ俗人と鬪打の事あるを義解に僧尼相鬪打を添たるハ集に依本文云與人鬪打然僧尼相鬪者猶入此条何者以忍辱法躰為鬪打故と云ふ如し本罪とハ俗人の法律にて鬪訟律に凡鬪打人折齒決耳鼻眇一目及折手足云云傷人者律一年と有僧尼も是に准ふ下條ハ凡僧尼有犯准格律合徒年以上者還俗云云をさす

擾亂官家妄相屬請八字連讀

再犯者百日苦使とも義解に已

相鬪打者

依下條也

發再犯といへる如く所司に縁ぜして表啓を上り并に官家を擾亂して妄に囑請せるも兩事たりといへども一時に行へども五十日苦使也此兩事を再ひ犯せを再犯と云再犯ハ名例律に凡犯罪已發及已配而更為罪者各重其事と見えて即百日苦使也まと義解に若先上表啓後妄囑請者亦是とハ本文に无き事を搜て注せる也されも是ハ上表啓を一度〳〵妄屬請を一度〳〵て再犯といへるなり也再犯文為兼兩事之文故の下の文字京本下に作る今東本に從ふ一度犯したる五十日苦使いまと科ざる内に二度犯をも先まに通して再犯として百日苦使也さて第三

凡僧尼有事須論不緣所司輙上表啓擾亂官家妄相屬請者百日苦使再犯者百日苦使

謂有事者寺家事也所司者治部玄蕃其外國可國司也

即是也

謂已發再犯與律更犯其意同若先上表啓後妄囑請者亦是再犯文為兼兩事之文故其第三度犯者更始五十日苦使第四度犯者百日苦使與三犯徒流之律其義同若二罪以上俱發者亦依律取例其前後四度累犯而一度惣斷者不得過二百日何者為准杖法故也

若有

度犯をも更始らして五十日苦使第四度犯をも更始の苦使未科ざる内なをも更始の再犯ゆゑに、もと百日苦使也。これ三犯徒流に同し。三犯徒流とも賊盜律に凡盜經斷後仍更行盜前後三犯徒者近流。三犯流者絞といひて三度徒を犯をも三度目にも流に處し、三度流を犯をを三度目にも絞に處し、徒罪も流罪も三度科ることなし。苦使もかくの如く、再犯百日を二度し科をれども三度ハ科きぬ也。若一罪以上とハ二罪ゟゟ以上也。上表啓と相屬請との二罪も前文にて明ゟゟをそれより以上三罪も四罪も發ゟゟをいふ。

為准杖罪故也。抄云疏議曰漢景帝以笞者已死而笞未畢改三百曰二百二百曰一百。奕代沿流曾无增損。

官司及僧綱斷決不平理有屈滯須申論者不在此例。

凡僧尼作音樂及博戲者謂雙六樗蒲之類也百日苦使碁琴不在制限。

凡僧尼聽著木蘭青碧皁黃及壞色等衣謂木蘭者黃櫟也。青碧者碧亦青色也。壞色者失錯常色漫壞非全者也餘色及綾羅錦綺並不得服用違

泊隋室以杖易鞭。今律亦累決笞杖者不過二百。蓋猶漢制也。愚按唐律及本朝制杖罪自六十至一百。謂不過二百者本漢法而言之也。

音樂及博戲古記云音樂謂不相須與律作樂少義異也。博戲謂武習力競之類亦不聽與俗人少異也。博戲者雖不賭亦苦使。梵網經云佛子不得聽吹貝鼓角琴瑟乃至伎樂之聲不聽樗蒲圍碁一一不得作。若故作者犯輕垢罪。疏云菩薩為道應惜寸陰虛度時節制為罪也。道僧格云作音樂及博戲者百日苦使若相取財物者還俗。ゟ㐌此條の事も別記ゟいへり。

碁琴の琴ハ古記云七弦貴嶺問答云琴者唐也。新羅和琴非也

木蘭云云釋氏要覽云律有三種壞色謂青黑木蘭。ゟゟ抄云青謂銅青。黑謂雜泥即溝瀆中泥。木蘭即樹皮。必藕六物圖云木蘭皮可染赤黑色。されを佛家にて青黑木蘭の三色を壞色とゝて六物圖に此三色須離俗中五方正色及五間色と見えゝをも佛家に佛家の青黑も青黃赤白黑の正色の青黑に非ず即青も銅青黑も雜泥也。然をども此今に於ても其三種の壞色を用ひず。亦五方の正色にも依らず。別に中を取て宜を制ゝへり。故に釋に木蘭者黃櫟蒲萄等色是又似綠而鈍不明也といふ。六物圖の赤黑色に粗ゝふへをど。猶彼に比ぶれを花やゝ也。青碧ハ青と碧と也。釋に紺色謂之青。綠色謂之碧也と見ゆ。皁も玉篇に黑也といふ。壞色ハ釋に涅槃經に失錯常色是也。假如蘇芳紫色洗壞之類。其色不正而醜也と見ゆ。今の亂色の黑き也。さて佛家の制も。たゞ青黑木蘭の三色のみふるを。令條にても其色を斟酌して醜ゝら染ちとしめ。黃の正色。碧の間色并に同名異色の壞色を制し。并せて六色ゝゝ玉へり。其中にも。やや美しく見ゆるもいをど。紅紫の如き艶色にもいふゝ絲を。道服にして難ふるべきを以て也。ゟ㐌此条の事別記にいへり。

男女不限年多少。古記云。依古令男年十五以上。女年十三以上。

婚嫁聽之依此條制之この法
に拘泥臨時に斟酌なるを云
其所由人とも義解に謂所停僧
尼とある如く俗人を停さる
僧尼也其被停男女者自依首
從律の首從も唐名例律に諸
共犯罪以造意為主隨從者減
一等とあるが如し、されも男
女の方より起て強て停さう
とても僧尼のうちに首從
に拘泥しまと僧尼より起
りて停めさるなれも男女も
從あり後紀弘仁三年四月敕
禮越有可勾當寺内雜事者聽
暫入不得因此經宿留連と見
えとれも寺家の事に就ても
止宿もさるぬ也
死病看問は師主に非といへど
も聽されるも梵網經に佛
子見一切疾病人云云不救濟

者犯輕垢罪也
功德釋云造佛經之類也
謂服餌者云云の義解誤脫多し
今集解を以て改む避一本辟
に作る漢書張良傳注に服辟
穀藥而靜居行氣の辟也
申官判下次に在京三綱經僧綱
僧綱經玄蕃玄蕃經治部治部
申官未知國司直申官哉為當
先經玄蕃哉又官受取行之何
答依文經申官官判下耳但官
勘知事由并弁史共署印下耳
申官判下為一句也下謂判下
書也然則判下官判下也とい
へるが如し
凡任僧綱云云僧綱の在所令條
に於て其所をさく次養老六
年七月續紀に其僧綱者宜以
藥師寺常為住居とありまた綱
所も藥師寺あり釋云大寶二

者各十日苦使輙著俗衣者謂衣冠並著也
縱不尼並著犯其一者亦須依佛法論也
百日苦使
凡寺僧房停婦女尼房停男夫謂男女不限年
之多少但須臨時斟酌之也
經一宿以上其所由人謂所停僧尼其被停男女者自依首從律但僧尼者雖是為從猶科苦使不合減罪也
十日苦使五日以上三十日苦使十日以上百日苦使三綱知而聽者同所由人罪

凡僧不得輙入尼寺尼不得輙入僧寺
其有覲省師主及死病看問謂雖非師主皆聽者問也
齋戒謂齋會也
功德謂修善也
聽學謂學問也
者聽
凡僧尼有禪行謂禪靜也
修道意樂寂靜不交於俗欲求山居服餌者謂服餌者避穀服藥而靜居行氣也雖不服餌亦聽山居也
三綱連署在京
者僧綱經玄蕃在外者三綱經國郡

年正月太政官處分任僧綱者在京諸寺僧請集藥師寺仍大弁一人史二人式部輔一人丞録各一人治部玄蕃主典云云少弁以上大夫宜命弁官式部左列治部右列

謂律師以上の下論事者云云の百九十七字京本ニ有リ釋文の攙入ナリ今これを削る

浪舉無德者穴云阿黨朋扇浪舉无德者明知非有阿黨朋扇者无罪朱云无德被舉僧无罪只解退耳

若有過罰云云穴云若有過罰依上法簡換未知本罪免哉答不今免也換後依法苦使也今說本罪可免案於僧綱任符為告牒之說可免但於公驗為告牒之說不可放免也この說義解ニ異也并せ考べし

勘實並録申官判下山居所隷國郡

謂假如山居在金嶺者判下吉野郡之類也

每知在山不得別向他處

凡任僧綱謂律師以上必須用德行能化徒衆道俗欽仰綱維法務者謂僧綱者

僧正僧都律師也德行者內外之稱也在心為德施事為行也綱維者張之曰綱持之曰維言張持法務令其不傾弛也

所舉徒衆皆連署牒官若有阿黨朋扇

謂阿黨者阿曲朋黨也朋扇者朋黨相扇也

浪舉無德者百日苦使一任以後不得輙換若有過罰及老病不任者

謂過罰者十日苦使以上也僧綱若犯此罪者唯解其任不更苦使也老病不任者緣老若病不任其事也

即依上法簡換

凡僧尼有犯苦使者修營功德

謂書寫經典莊嚴佛像之類也

料理佛殿

謂丹堊塔廟之類也

及灑掃

謂灑散水即洒掃堂宇其斬斧舂稻之役非道人所可親故立其限制使

老病穴云老者六十以上也病者日限不見但量狀耳古記云老謂七十以上合致仕也病謂長病尫弱不堪任也

簡換の下京本也云云廿一字ハ ナリ集解攙入ホレル削る

苦使釋云道僧格云有犯苦使者三綱立案門鎖而放一空院內令寫其經日課五紙撿紙數滿足者放出若不解書者遣執土木作修營又老少量臨時

佛殿古記云謂塔金堂法堂之類是也食堂步廊等類者非也

丹堊の堊音惡塗也

不可倍使の倍字京本陪ニ作る

集解同し倍し字彙ニ物相二曰倍されど所縱の三綱を苦使ばるる被縱僧ハ苦使を法これ相二つるぬ也もと集解の陪ニ依るべき陪し字彙ニ滿

也とゐうたとへを十日の苦使を三綱阿容して五日縱ぢ時も殘る五日を三綱に科せ被縱さる僧も十日の苦使を滿しむべきぢの義也いづれにても通ぢ

二罪法とは罪二つ有て一も杖一百一ハ杖六十あるときも二あるうも科せぢ一の重き方を以て罪ぢるなり僧尼もかくの如し本罪の苦使六十日あるを請求る所ゐうて聽しぢる時もその請求を聽せる罪百日苦使あるゆゑに六十日のうちに依らで百日を三綱に科ぢる也若又本罪のうち百日苦使ようも重けれを請求を聽さる罪の百日をも棄て本罪を以て三綱に科ぢる也

不浪執也等使須有功程若三綱顏面不使者即准所縱日罰苦使謂顏面面柔也言犯苦使僧無所請求而三綱自阿容不使者即准所縱日多少反罰苦使若雖不滿十日猶亦准所縱須苦使其被縱僧者不可倍使何者下文云輙許之人與妄請人同罪即非妄請者不可科罪也其有事故須聽許者並須審其事情知實然後依請謂事故者身病及父母喪之類也依律有所請求已施行者各杖一百然則妄請之人者本罪之外更合

從一重者の從字京本追に作る集解遂に作る東本是に從ふ今一本に依る

防其猶為僧尼こも已が法名を他人に與へて其人を已が代に僧尼とある者其意已れ僧尼ぢるを嫌て他人を代りとし還俗ぢるもゐるべくまた佛道に引入む為に已ら法名をた他に名乘せ已も本のまま僧尼にて居るもゐるへし正しく公の大御寶さる民ぢて僧尼にある事ゐれた輙く聽ぢるもゐきまぢなるを然一人の名にて二人僧尼にあるゐるもし公の為損有て益なし故に猶僧尼ぢるを防くと也

公驗とは度牒の事也

依律科罪とハ古記云案戸婚律

百日苦使其輙許三綱者依二罪法本罪與施行杖一百從一重者科之也

如有意故無狀輙許者謂犯苦使之僧無可許之狀而貨賂潛行囑託屢進三綱受容挾情輙許者也

輙許之人與妄請人同罪

凡僧尼詐為方便移名他者謂僧尼以已公驗授與俗人令其為僧尼其本僧尼者或猶為僧尼或還成白衣皆同但防其猶為僧尼故立猶為僧尼之文也

還俗依律科罪其所由人與同罪謂所由人者俗人受公驗為僧尼也與同罪者

私入道及度之者杖一百謂僧尼等非官度而私入道及度之者已除貫者徒一年謂度之者亦同罪本國主司及僧綱知情者與同罪謂私入道人所屬國郡司及僧綱并所住寺三綱知情者也案上文移名本僧以違令罪論新僧以私入道論下文方便移名並以私入道論也また穴ゐ依律科罪謂百杖以下還俗无加罪徒罪依下條還俗即以告牒當耳まゝ朱ゐ移名他還俗依律科罪謂度之并除貫罪依律科也不用告牒也所由人とハ穴云被移名俗人耳佐官の事法隆寺流記ゐ天平廿年六月十七日佐官業了僧願法佐官兼藥師寺主師位僧勝福ふと見ゆ綱所の録事也天武記二年十二月加佐官二僧准還俗罪合徒一年也

凡僧尼有私事訴來詣官司者權依俗形參事謂依俗形者既為俗形即須稱俗姓名也參事者參對官司申論事緒也

其佐官謂僧綱之録事也

以上及三綱為衆事謂衆僧之事也

若功德須詣官司者並設床席

凡僧尼不得私畜園宅財物及興販出息謂畜者聚也其尋常所須及緣身資用如此之類不在禁限然不得其有四佐官始起于此時也とゐり釋云大寶三年正月廿三日太政官處分任僧綱之佐官僧者申官而後補任解任亦同衆事義解ゐ衆僧之事也とゝ云ふと穴ゐ餘衆事亦同朱ゐ謂寺内諸事といへゐゐ從べし

功德古記立塔柱之類

凡僧尼不得私畜園宅財物法曹至要云案之僧尼出家除貫之者也身離貪欲心食忍辱三衣一鉢之外不可畜財物若遺財之中有佛具衣鉢之類是緣身資用分與可无其妨自余財物不可與之まゝ僧尼遺物弟子可傳領支名例律云僧尼於其師與伯叔父同於其弟子與兄弟子同戸令云无子者聽養四等以上親於昭穆合者說者云四等以上者謂兄弟之子儀制令五等親条義解云兄弟之子猶子引而進之案之遺財處分雖為俗人設法為僧尼不立制只以因准之文可案折中之理假令僧尼身死有遺物有弟子聖經經論之類相兼諸法之者便可傳得自余佛具衣鉢之類各隨狀可均分是則准俗人之法兄弟之子猶子至收養之時為得分之親今僧尼於其弟子可比俗人之養子欤但准養子之条隨事可案得欤

興販出息古記云既稱出息即知无利借貸者不禁

無處可隱云云五位以上とゝ四位以下まり僧尼若四五位ゐ遇む馬を歛て相揖して過く若僧尼歩めむ隱さて四五位の人ゐ下馬をゝめざゐ也然ゐゐ集解ゐ五位下馬耳釋云一云五位不可下馬と見えて

凡僧尼於道路遇三位以上者隱謂若無處

仍出息興販也興販者賤買貴賣也

出息者貸物生子凡僧尼犯此法者

其物皆

没官也

可隱者歛馬側立也

五位以上歛馬相揖而過

僧尼の歩行に遇る時下馬はさと、せざるとの異論ありといへども、又集解に神龍五年三月廿八日格云、外五位若有歩行僧尼忽逢道路者下馬過去也云云、案有此制則内五位不下欤と見えて外五位も下馬すること明らかなれども内位に至りては下りぬなるべし、

欽馬相摂而過の過字、京本遇に作る誤、今集解を以て改む、

凡僧尼等云云、朱云僧尼二色人數巨多也、故稱等字也、更无異也、

凡僧尼有犯云云、合徒年以上者、の有字、京本者に作り、合字令に作る、今集解要畧法曹至要等に依て改む、

告牒も公驗なり、續紀養老四年正月、始授僧尼公驗、まゝ度縁とゝ、玄蕃式に省先責手實申官、與民部共勘籍、即造度縁一通、省寮僧綱共署、尚大政官請印、即授其身、

律云事有時宜の事字以下十五字、唐斷獄律の疏議の文也、元為俗人設法の元字、京本无に作る誤也、集解を以て改む、

依律雜犯死罪者除名、名例律に

若歩者隱、

凡僧尼等身死、三綱月別經國司、國司毎年附朝集使申官、其京内僧綱季別經玄蕃、亦年終申官、

凡僧尼有犯、准格律合徒年以上者、還俗許以告牒當徒一年、謂格者臨時詔敕也、律云

其雜犯死罪、即在禁身死若免死別配、及背死逃亡者並除名、とゝ、其本注に謂本犯合死而獄成者とゝ、

亦先還俗然後處死云云、還俗即俗人の除名に同じ、されど俗人の死罪も先除名は僧尼の死罪もまづ還俗は、

其流罪者比徒四年、名例律云、當以官當流者、三流同比徒四年、疏云八位以上犯流不合真配、既須當贖所以比徒四年、假有八位犯私罪流、以四官當之、无四官者准徒年當贖、故云三流同比徒四年、

加役流とも、髡髮して配役する者也、名例律云、凡犯流應配者、三流俱役一年、疏云本條稱加役流者、配遠處役三年、

不得以告牒當とは、上に いへる事有時宜、故人主權斷、詔敕量情處分、是也、其格律者、元為俗人設法、不下為僧尼立制、是以稱准也、徒年以上者、死罪以下也、告牒者、僧尼得度、公驗也、依律雜犯死罪者除名、即知僧尼犯死罪者、亦先還俗、然後處死、其流罪者、比徒四年、以告牒當徒一年、其餘三年、依下文役身也、若犯加役流者、亦還俗而配流、不得以告牒當、即至配所不免居作也、

若有餘罪者依律科斷、謂假有犯徒二年者、以告牒當一年徒、其餘一年者、依律役身、其犯徒以上、還俗之後、猶有餘罪、藉父祖蔭應得減贖者、一依俗人之法也、

如犯百杖以下每杖

如く、流罪を徒四年に比して、一年ハ告牒を以て當らるれども、加役流ハ罪重きゆゑ、告牒を以てハ當られぬ也。依律科斷、義解に依るに、徒二年犯さるも、一年も告牒を以て充、一年ハ身を役ぜらるゝ也。依律の律も、名例律あるを、彼に載せる所も、先以官位當、次以勲位當云云、若有餘罪及更犯者、聽以歷任之官當、と見えて、俗人も官職なり、官位なり、勲位なれも、徒年に當て贖べき物多けれども、僧尼も僧綱師位以上の外ハ、たゞ告牒のみなれも、此俗人の律に准て科斷せといへども、告牒を一年徒に當て、餘罪なれも、身を役ぜる也。父祖蔭の父祖二字、京本文但に

十令苦使十日若罪不至還俗及雖應還俗未判訖並散禁。謂犯苦使已斷訖未付三綱者散禁、若未經斷者、付寺參對、其應還俗判斷已訖者、一同俗人之禁法。**如苦使條制外復犯罪不至還俗者**。謂准據格律所犯之罪、既非苦使、亦非還俗、故付三綱量事令科罪、是內法之制、非俗律之科、其違令違式、及舉輕明重、并不應得爲等類者、並律有科條、不可更依佛法也。**令三綱依佛法量事科罰其還俗并被罰之人不得告本寺三綱及衆事**。謂還俗之人、至于終身被罰之僧、苦使之間、並不得告言也。**若謀大逆謀叛及妖言惑衆者**。謂以妖言而惑三人以上、即雖妖言而不惑衆者、不可告言也。**不在此例**。

作る誤也。集解を以て改む。應得減贖者とハ、二事也。名例律に、凡七位勲六等以上及官位勲位得請者之祖父母父母妻子孫、犯流罪以下、各從減一等之例、これ減也。もし凡應議請減、及八位勲十二等以上若官位勲位得減者之父母妻子、犯流罪以下聽贖、これ贖也。散禁とは、拘束を用ゐずして、一室に籠居せしむる也。未付三綱者云云、この義解に、本文の義を解るまゝにゐゝ、本文も還俗ゐべきの罪にて、本罪重し、義解に苦使あるゆゑに、本罪輕し、輕けれども、是も散禁也。もし未經斷者云云も、還俗ゐべき者の未斷あるゆゑにゐゝで、苦使の未斷あるゆゑに、又いと輕くて、參對のみ也。

凡有私度及冒名相代。謂冒覆也。言甲冒承乙名而官司不覺與度、或詐受身死僧尼名相代爲僧尼者也。**并已判還俗仍被法服者依律科斷師主三綱及同房人知情者各還俗**。謂此唯據私入道未

参對八有司の拘ハる事ヨリ而ら法寺ヨリ而づけて番をさ法る也皆本文の餘意をいへり。

一依俗人之法トハ還俗をぬ内ち僧尼あるゆゑ陰位を用べきゆうおゝといへども還俗をた本貫ヨ歸るゆゑヨ父祖の陰を用ふと也

如苦使條制外讃云是假令為殺生及不齋食不行六時造細責入之類皆条制之格也此令兎此格也故云外也云云跡記云如此之類俗官不能斷定者對三綱勘内法令斷決也私思如此小罪於寺内事發者必不經俗官三綱任科罰之但為俗官告訴者同跡云也

其違令違式云云雜律云違令者笞五十違式減一等これ也舉輕明重ち集解ヨ問文舉謀大逆不云謀反意答是舉輕明重耳と見ゆゝ不應得為ヒ雜律云諸不應得為而為之者笞四十謂律令无条理不可為者事理重者杖八十

被罰の罰字一本東本ヨ従ふ

若謀大逆謀叛云云寺中ヨこれらの重罪を犯法ゑるを知ヨ時ハたとへ被罰の間といへ云ち告べ

と也集解ヨ問文與謀大逆云云の十八字ゐるを義解ヨ混して載さう今除きて標注と法ゑ謀大逆謀叛を舉て謀反を舉さるハ即これ舉輕明重の義也

冒名相代これ身ヨ智行を積ま法公驗を得ヨ由ゆきヨ依りゝ〻ヨ事をなさ也續紀寶龜十年九月癸

除貫若知已除貫者自依格律條

雖非同房知情容止經一宿以上皆百日苦使即僧尼知情容止浮逃人經一宿以上者亦

未敦僧尼之名多冒死者心挾奸偽犯亂憲章就中頗有智行之輩若頓改革還辱緇侶宜撿見數一與公驗とゐる考べし。

依律科斷の下京本私戸婚律注云斷後陳訴者須著俗衣仍被法服者亦從私度科杖一百也の廿九字ゐり集解の攙入也故ヨ彼を除て此ヨ載法

謂此唯據私入道云云の廿二字本文ヨ應ぎ法不審也

浮逃人朱云浮逃二事也これ浮浪人と逃亡人と也

經一宿以上釋云捕亡律云凡部内容止他界逃亡浮浪者一人里長笞卅註曰經十五日以上者但於此令經一宿即坐

苦本罪重者依律論古記云依律論謂捕亡律凡知情藏隱罪人若過致資給令得隱避者各減

百日苦使本罪重者依律論謂假如知情容止反逆之類也

凡僧尼等令俗人付其經像歷門教化者百日苦使其俗人者依律論謂既云僧尼令俗人歷門教化即明僧尼是為造意其俗人者自依從減一等之律合杖九十也

凡家人奴婢等若有出家謂稱等者官戸奴婢亦同其依内教奴婢者不許出家而此稱出家者緣其入道免賤與度故也

罪人罪一等也。
凡僧尼等。朱云未知等字意何。答僧尼廣多。故稱等字也。これ上条僧尼等身死云云の朱説と同し。
僧尼是為造意。唐名例律云。諸共犯罪。以造意為首。隨從者減一等。これ從減一等の例あり。
稱等者官戸奴婢亦同とはいへとも。本文に家人と私奴婢とを擧たるに依て。義解に官戸も公奴婢も共に同きを知せたるものの也。
其依内教とは。四分律行事抄資持記云。奴者。僧祇云。若家生買得。抄得。此彼不得他與奴自來奴者。聽度。今有人放奴出家者。若取出家功德經。若放奴婢及以男女。得福无量。律中不明。放者。但言自來投法度之。是非準

後犯還俗及自還俗者並追歸舊主。各依本色。其私度人。縱有經業。不在度限。謂責其初犯法制。故不聽其度。若改正之後。更應得度者。不在禁限也。

凡僧尼有犯。百日苦使。經三度。改配外國。謂已發更犯是也。即與上條再犯義同。其第三度百日苦使者。為其外配。不更苦使也。若前犯二百日苦使。其役未畢者。便於配所。而役之。其三犯百日苦使。止數赦降之後。為坐。與律。三盜徒流義同也。改配外

奴及兒。彼此通免云云。これに依て。自來の奴の外は出家を許さゝる事律制也。律は公家の律にはらず。佛家の律なれ。故に内教といへるもの也。
免賤與度。故也とは。古記に謂本主放與出家也。先放賤從良者非也。といへる如く。賤を免て良にし。其後に出家をしむと云ふは非也。道に入れるを擧て僧とふとしむるが。即賤を免したる也。
各依本色とは。家人は家人。私奴婢は私奴婢。官戸は官戸。公奴婢は公奴婢。各其色に歸也。
已發更犯の更字。京本再に作る。集解を以て改む。已發更犯とは。始め犯せる百日の苦使いまゞ斷決せさる内に。又更に百日苦使を犯さるを云。此は經三度とはいはゝ。百日苦使を三度犯さるなれども。後の一度は。外國の寺に配せらるゆゑに。苦使を止。是に依て。百日苦使を二度はらるを。已發更犯と

國寺者。若外國僧尼有此三犯者。不可更移配他國也。仍不得配入畿内。

凡齋會不得以奴婢牛馬及兵器充布施。謂若違法輙充及受之人。各當違令之罪。仍准上條僧尼畜財物法。其物皆須沒官之也。其僧尼不得輙受。

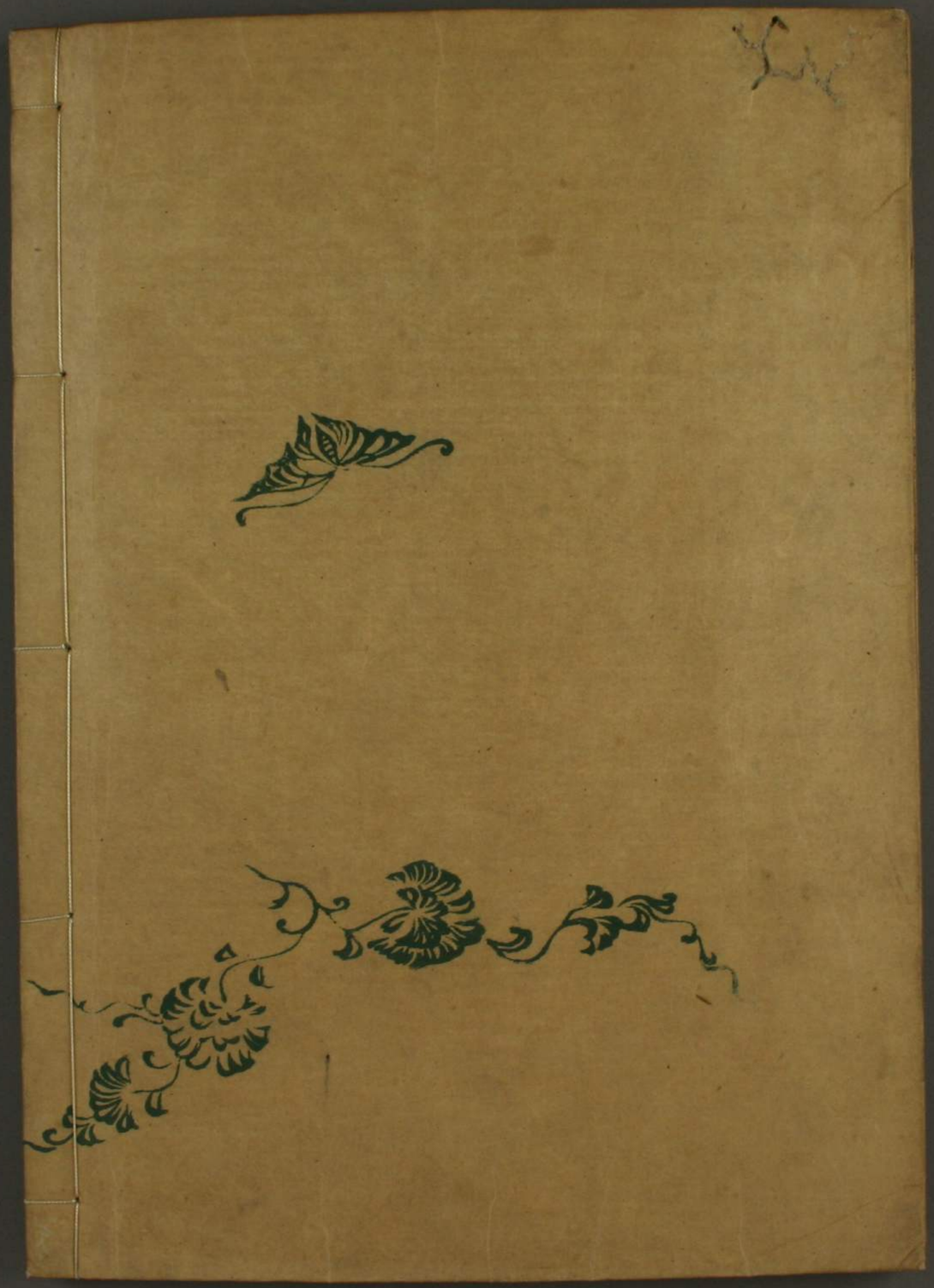
凡僧尼不得焚身捨身。若違。及所由者。並依律科罪。

いへるもの。與上條再犯義同とあるも。凡僧尼有事須論云云者五十日苦使。再犯者百日苦使の文を指せる也。彼ハ五十日を再ひして。此ハ百日を再ひして其數ハ異なれ共。其意ハ同しけれと義同といへるもの也。

止數赦降之後云云。唐律釋文に。降者即赦之別文。赦則罪无輕重。降則減重就輕。とある。是赦と降との別也。賊盜律に。凡盜經斷後更行盜。前後三犯徒者近流。三犯流者絞。とあり。是を三盜徒流といふ。此注に。三盜止數赦後為坐。まゝ疏に。謂擬赦後三犯者。不計赦前犯状為數。とあり。是赦後を數て坐を為しむる例也。又疏に。若有三犯死罪。會降皆至流徒。或一兩度止犯流徒。或一兩度從死會降。惣成三犯者。律有赦後之文。不言降前之犯。とあり。是降後を數て坐を為しむる例也。されと其律文をこの令條に准へ考るに。たとへた赦あれと。前犯二百日の苦使にて降。百日の苦使にても皆赦まて。赦後に犯きる罪に依て。改て罰せらるゝ也。降あるとも。前犯二百日の内。五十日降さるれも。百五十日殘さるを。後犯百日ハ外國の寺に配らるゆゑに免さる。依之その外國の寺に於て。殘さる百五十日の苦使をしはらはるべし。但律に。ともせて論へと。うちあるもの所もあるとも。彼律疏に云へるハ。重を死罪のうへ。これを輕き苦使の事ふれたれ。わかるゝに就て看るべし。

凡齋會云云及兵器充布施とは。田令二十六条をあはせて解べし。

焚身捨身。古記に。焚身謂燈指燈盡身也。捨身謂剝身皮寫經并稱畜生布施而自盡山野也。とあり。若違及所由とあるは。違ハ僧尼の制に背ひて。焚身捨身はらるをいふ。即首也。所由とは是を許さる三綱の類をさは。即從也。ろゝに依律とあるも。即上ある以造意為首の標注に引る。唐名例律をさは也。

第十七号

豊田實藏書